

おいでよ

こらぼ

平成30年

秋

教室・講座、やりたいことを実現！



告知記事 地域活動の“幅”を広げませんか？ 連携・ネットワークの心得レベルアップ講座	2 - 3p
地域力ここにあり ー地域とともに 80 年 大森学園高等学校ー	4p
多様な人々・物事の出逢いとつながりの場 ー NPO 法人大森まちづくりカフェのご紹介ー	5p
こらぼ大森を使ってみました！ー 共同事務室編 ー	6p
第 15 回こらぼ大森夏まつり～福島×熊本被災地懇談会～ご報告	7p
地域イベントのご案内	8p

地域活動の“幅”を広げませんか？

連携・ネットワークの心得レベルアップ講座

～おおたの地域活動の仲間が大切にしていることを聞いてみよう！～

昨年もご好評いただいた団体レベルアップ講座。

今年は、「連携・ネットワークの心得レベルアップ講座」と題して、行政や企業などほかのセクターとの積極的な関わりを持つ4つの団体からゲストをお招きします。

さまざまな事例のお話を通じて得る気づきがたくさんあると思います。多くの方々のご参加をお待ちしております。



- 日 時： 2018年12月4日（火）19時～21時（開場18時45分）
- 会 場： 入新井集会室 LUZ大森 4階 集会室
- 定 員： 60名
- 参加費： 無料
- 対 象： 地域活動に取り組む方
（法人格の有無、活動歴の長短、ジャンル等は問いません）
地域活動団体との連携、ネットワークに関心のある方
- 登壇者： 右ページ記載
- 内 容：

◆ 1部：聞いてみよう！どのように活動の“幅”は広がりましたか？

地域活動・NPO活動にとって、ジャンルやセクターを越えた連携・ネットワークはとても大切な取り組みの一つと言われています。環境、防災、スポーツ、福祉など様々なジャンルに取り組む団体が、特に行政機関とどのような連携を図ってきたか事例をもとにしたお話を聞いてみましょう。

◆ 2部：言葉にしてみよう！私が地域活動で大切にしている「〇〇〇」

前半の感想を共有しながら、活動を振り返るワークショップを行います。
地域ネットワークの出会いになるかも？

- ワークショップファシリテーター：庄嶋孝広氏（大田区地域力連携協働支援員）
- 総合司会：茂野俊哉氏（大田NPO活動団体交流会）

●●●申し込み先：（こらぼ大森）●●●

氏名・連絡先・所属団体（役職）を明記のうえ、下記まで連絡ください。

TEL/FAX：03-5753-6560 E-mail：cbc10286@nifty.com

申し込み締め切り：11月30日（金） 残席あれば当日参加可。

主催：大田区民活動支援施設大森（こらぼ大森）情報交流室 I

協力：おおた区民活動団体連絡会、大田NPO活動団体交流会

登壇者 プロフィール

1) 牧野 ふみよ さん (NPO 法人大田・花とみどりのまちづくり 事務局長)
JA (農協) 直売店スタッフ、専門学校講師、造園設計事務所スタッフなど園芸関連業務を経験しながら、一市民の立場として、各地でガーデニングボランティア活動に取り組む。2002 年、NPO 法人大田・花とみどりのまちづくり設立に関わり、設立後は事務局を務める。そうした活動の中で、地域緑化ボランティアにおけるコーディネートの専門機関の必要性を感じ NPO 法人 GreenWorks を 2005 年 12 月に設立、企業における緑の社会貢献事業のサポート、都立公園におけるボランティア育成講座などにも取り組んでいる。



2) 仙 裕司 さん (縁プロジェクト 代表)
縁プロジェクトは、東日本大震災以降、大田区と区民が協働で続けている被災地、被災者および避難者の支援ボランティア活動を通じた仲間が中心となって生まれる。この活動により、芽生えた大田区と東松島市の交流・友情・縁が重なり区民と市民有志の企画により、平成 24 年に絆音楽祭を開催し、以降毎年実施。災害ボランティアとして多くの災害現場で赴き、その気づきを大田区民へ、そして子どもたちへ伝える防災啓発にも取り組む。



3) 桑田 健秀 さん (一般社団法人おおたスポーツコミッション 理事長)
大田区立馬込東中学校でバスケットを始め、慶應義塾高校に進み、全日本ジュニアに選出される。その後慶應義塾大学では得点記録を更新。卒業後、日本鋼管 (NKK) に入社。1976 年にはモントリオール五輪に出場するなど全日本で 11 年間プレーした。1983 年現役引退。1990 年から 1992 年まで男子全日本ジュニアのアシスタントコーチに就任し、アジアジュニア優勝・世界ジュニアに導く。1997 年にバスケットボール日本リーグ機構 (JBL) が発足されると、翌年には常務理事に就任。その後 2003 年、NPO 法人ピボットフットを設立。スポーツを通じた明るく健全な社会づくりに取り組む。現在は、一般社団法人おおたスポーツコミッションの理事長としての取り組みも多数。



4) 浜 洋子 さん (NPO 法人大田区介護支援専門員連絡会 理事長)
2 年間の有償ボランティアのホームヘルパー経験を経て、地域の仲間と NPO 法人福祉コミュニティ大田を介護保険制度開始前の 1999 年 10 月に立ち上げた。訪問介護事業所 (ヘルパー)、障がい者相談支援事業所 (障がい者相談支援専門員)、管理職を務める居宅介護支援事業所 (ケアマネジャー) 3 事業を代表として運営。2016 年より大田区のケアマネジャー職能団体である NPO 法人大田区介護支援専門員連絡会理事長。2018 年度より連絡会として保険者 (大田区) と介護支援専門員が共にケアマネジメントの質の向上を目指す、委託 3 事業 (ケアプラン点検・ケアマネ相談室・年間研修 5 回) を展開。おおた区民活動団体連絡会の共同代表、おおた地域包括ケアシステムをすすめる会代表として区民のための地域づくりを目指す。



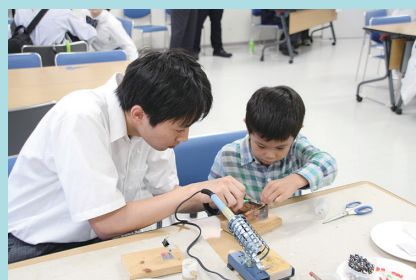
地域力ここにあり

地域とともに 80 年

大森学園高等学校 教頭

安達 毅さん

1939年(昭和14年)、本校はこの地域にある62の工場の経営者のみなさんにより創立されました。そうした経緯もあり、昔から地域との関係は密接で、生徒たちは今でも地域活動を通して多くの事を学ばせて頂いています。創立当時、男子のみの工業高校だった本校は平成17年に普通科を新設、2年後に男女共学となりました。今では進学にも力を入れ、早稲田・慶応といった大学はもちろん、東京大学にも現役で合格する学校へと生まれ変わりましたが、地域の皆さんとの交流を大切にするという精神は忘れることなく現在に至っています。



私が生徒会の顧問になったのが平成9年。その年から始めた「おもちゃの病院」（壊れたおもちゃを無料で修理する活動）、「車いすのメンテナンス」（特養大森で使用されている車いすを整備する活動）は20年の時を経た今でも活発に活動を継続していますし、平成12年から始めた「空飛ぶ車いす」（日本で廃棄される車いすを整備して東南アジアに送る活動）で海外に贈られた車いすは既に826台となりました。

毎年実施していた「地域の皆さんとの車いす合同修理会」では、平成23年11月には特別に東日本大震災の被災地に送るという主旨で実施。130名を超える皆さんと40台を再生させ、当日の様子は毎日新聞に掲載されました。これらの活動を通して生徒たちは学校内ではできない数多くの事を経験させて頂いています。普段、地域の大人の方々から褒められる経験などない生徒にとってはとても貴重な体験です。皆様の温かい言葉や励ましに感謝いたします。



地域の皆さんとのこうした歩みを「地域との共生を通して生徒のハートに種をまく」といった論文としてまとめたものが第58回読売教育賞で最優秀賞を頂くことにもつながりました。少子化の波で多くの地域が高齢化に直面する中で、学校としてこういった形で地域に関わっていけるかは全国的な課題でもあります。来年、創立80周年となる本校は、これからも皆さんとともに歩み続けていきたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

多様な人々・物事の出逢いとつながりの場

～NPO法人大森まちづくりカフェのご紹介～

NPO 法人大森まちづくりカフェ 代表理事

鵜飼 修さん

NPO法人大森まちづくりカフェ（以下、まちカフェ）は大森を拠点に様々な「ことづくり」「ひとづくり」「つながりづくり」活動を実践する「まちづくり」NPO法人です。任意団体としては2004年4月24日の設立ですが、設立総会は開設間もない「こらぼ大森」で実施されました。最初の事務所も2階の共同事務室にお世話になりました。事務所はその後移転し、現在では池上通り山王COCO商店街に構えています。

まちカフェの「ミッション」は、大森を中心とした地域の魅力を発見、創造、発信することです。この実現に向けて、様々な活動を実践しています。「ちがいを知るまちあるき」では、大田区内外を様々なテーマで巡る「まちあるきルート」を開発しています。開発したルートは、参加者を募って楽しみながら歩きます。地域情報紙「大森まちづくりカフェ」は、タブロイド判4面構成、年4回、3万部を発行。オススメのお店や、地域の歴史、頑張っている団体、人物の情報を発信しています。



多様な人々の出会いの場づくりを実践している
(写真は総会後の懇親会)

8月と12月を除く年10回、毎月第4火曜日に開催している「まちカフェ夜学」は、まちに関する様々なテーマについてゲストを招いてのミニ勉強会です。馬込文士村で文士たちが開いたサロンを模したもので、少しアルコールも入りながら、ざっくばらんな交流・勉強の場を提供しています。大森アートフェスタなどのアート事業は、地域のアーティストのネットワークづくりや、地域に住む方とアートとの出逢い・交流の機会を提供しています。こらぼ大森の情報交流室Ⅱでは、コーヒーやハーブティー、スイーツのあるカフェ機能をもった交流の場、居場所づくりを、地域の女性達が日替わり店長形式で担っています。

その他、国際交流、被災地支援活動、地域マップなどの制作支援、商店街のイベント支援などの活動で、年間事業規模1千万円、事務局員1名、無償ボランティアの役員13名、有償ボランティアのスタッフ10数名が協働・連携して活動を行っています。

こらぼ大森の開設と同時期に生まれたまちカフェですが、これからも、地域とつながり、地域の元気を育むことのできる人材の育成の場、多様な人々・物事の出逢いとつながりの場でありたいと思います。



こらぼ大森2階で運営に携わる情報交流室Ⅱは先日10周年を迎えた

情報紙大森まちづくりカフェで地道に地域情報を発信



こらぼ大森を使ってみました!

～共同事務室編～

こらぼ大森では、「連携と協働」をテーマにした区民活動支援施設として、NPOなどの区民活動団体向けに「共同事務室」を提供しています。2つの教室をそれぞれ4分割して、部屋を共同して利用いただいています。1区画はおおよそ10㎡です。机や椅子のほかに資料を置く書棚なども配置できます。

また、電話、インターネット接続料等は団体負担となりますが、設置可能です。

利用対象は、区民活動団体の立ち上げ期や新たな事業展開を行う区民活動団体（NPO法人、任意団体など）です。そのため、スタートアップ支援として、月額5,000円と低廉な料金にて貸出しをしています。（光熱水費含む。）こらぼ大森設立以降、15年間にわたり、これまで数多くの団体にご利用いただきました。



入居をしている団体の事業や取り組みは、多種多様です。モノづくり活動の連携支援、障害者等向けの相談支援、ドローンの啓発活動、教育サポート支援、DIY（自分で修繕する大工作業等）の啓発活動、学習支援など、多岐にわたります。年に数回ですが、利用団体との懇談会を開催しており、それぞれの取り組みについても共有する機会を設けております。過去には、利用団体同士で新たな地域プロジェクトの話も話題に挙がったようです。

現在、空きスペースが2つございます。（2018年9月）見学のお申込みや各種お問い合わせは、こらぼ大森情報交流室Ⅰ（電話/FAX 03-5753-6560）までお願いします。同じ2階フロアーには、印刷機や紙折り機を備えたワーキングルーム、ミーティングルーム（無料、原則1時間以内）もございます。新たな事務スペースをお探しの団体にはうってつけかと思います。どうぞお気軽にお問い合わせください。



入居団体の（一社）ここん 代表 井上さん



共同事務室利用者と施設関係者との懇談会



こらぼ大森活動の報告

第15回 こらぼ大森 夏まつり～福島×熊本被災地懇談会～

15回目の節目となるこらぼ大森夏まつりが、今年も盛大に開催されました。

「手をつなごう!みんなの力!」をテーマに掲げて、東北・熊本の被災地支援に取り組む団体の出展がありました。本号では、くう～の東北主催の福島×熊本被災地懇談会の模様をレポートします。



くう～の東北 WEB サイト : <https://ku-no.org/>

くう～の東北のコーディネートのもと、2名のゲストをお招きしての被災地懇談が行われました。おひとりは、福島県から参加の大河原多津子さんです。例年好評の劇団赤いトマトのプロジェクトとして、今年も人形劇の披露をいただきました。懇談会では、東日本大震災の発災直後から、福島原発事故の被害を含めて時々刻々とその経過を語っていただきました。大河原さん一家は、発災前から有機農法に力を入れるその土地では珍しい農家でしたが、原発事故とその風評被害で大きな打撃を受けています。汚染に関する情報開示を徹底して、地道ながらも信頼を回復することが大切、と大河原さんは力説します。そして、客観的に状況を知ってもらうこと、そして応援してもらえることは、なによりの励みとのことでした。

もうおひと方は、熊本県から参加の吉田祐一さんです。吉田さんは、日頃は障害者スポーツを通じて、多様性理解の啓発活動を行っています。夏まつり当日はこの企画のほかに、パラリンピック競技のひとつであるボッチャのデモを行っていただきました。吉田さんからは、避難生活のご苦労を中心にお話がありました。熊本地震の折には、若い世代を中心に SNS を活用して、求められている物資の情報拡散が行われました。現場でのニーズに応えるスピーディーな支援はとても画期的でした。しかし、その情報が独り歩きしてしまい、必要以上に同じ物資がたくさん届いてしまうこともあったようです。そのような光景を目の当たりにして、情報発信には日付を書くこと、物資の到着程度を追加で情報掲載することなどは、徹底したほうが良いのではと提案がありました。

他にもたくさんの経験にもとづいたお話があり、大変示唆に富んだものでした。そして、お二人に共通するのは、被災の経験を活かしてほしいというメッセージでした。会場からは、草の根の活動が災害に備える気構えだけではなく、地域を越えた交流を生み、そして人とのつながりの大切さを再認識したといった趣旨のコメントもあがりました。地域を大切にするこらぼ大森の夏まつりにとてもふさわしい催しでした。

地域イベントのご案内

OTA ふれあいフェスタ 2018

- 日時 11月3日(土)・4日(日)
 - 場所 平和島周辺の公園等
 - 企画の詳細については、区内公共施設等で10月下旬以降に配布されるチラシをご参照ください。
-
- 主催 OTAふれあいフェスタ実行委員会 大田区
 - 問合せ 大田区文化振興課 電話:03-5744-1226

第15回 ポレポレECOまつり ～江戸とつながる ～木・森・くらし～

- 日時 11月11日(日)11:30～15:30
 - 場所 こらぼ大森のグラウンドや体育館
 - ～江戸エコ三原則～
 1. マイはし・マイべんとうばこ・マイコップをもってこよう
 2. あるいてこよう
 3. ごみはもちかえろう
-
- 主催 こども交流センター
 - 問合せ 子ども交流センター 電話:03-5753-6801



こらぼ大森 ボランティア活動募集

～園芸活動ボランティア～

- 日時 毎週木曜日 13:00～ / 毎朝、毎夕
- 場所 こらぼ大森 グラウンド
- 内容 水やり、植物のプランターのお手入れなど
- 問合せ こらぼ大森 情報交流室 I
電話:03-5753-6560 担当:山田

～グラウンド芝生の養生作業～

- 日時 毎週木曜日14:00～
- 場所 こらぼ大森 グラウンド
- 内容 芝刈り作業他
- 問合せ ボランティアグループ 芝にゃん
電話:090-9674-4508
担当:諫山(いさやま)

編集部より

季刊誌「おいでよこらぼ」をご覧いただき誠にありがとうございます。本誌についてご意見・ご感想を下記のFAX 又はメールでお寄せください。

- ①お住いの地域〈大森等〉、②性別、③年代〈50代等〉をお書きください。

あて先: こらぼ大森情報交流室 I

- ・FAX 03 - 5753 - 6560
- ・メールアドレス cbc10286@nifty.com



MAP



発行者 齋藤十四男

発行日: 2018年10月1日

大田区区民活動支援施設大森 こらぼ大森

住所: 〒143-0015 大田区大森西2-16-2

電話: 03-5753-6616

URL: <http://collabo-ohmori.com/>



QRコード